

石を切る、漆を塗る。皮をなめす、土を焼く。縄文人の気持ちを知るために。 現代を生き抜くために。

<自然体でいこう>

宮沢賢治は『なめとこ山のくま』で、クマ猟師がクマに殺されてクマに丁重に送られる場面を書いた。クマとヒトの水平な関係の中での、憎しみを伴わないたたかいとその果て。アイヌ民族の「ウェンカムイ」とは違う、共生共死の思考。私の考える自然とはこれである。

吉村昭の『熊嵐』の材ともなった三毛別熊事件(1915年)や、近年の秋田県鹿角市の襲撃事件(2016年)の例を出すまでもなく、クマは人を食べるのである。ヒトはクマの血肉となったのである。関係者にとっては酷な言い方かもしれないが、それが自然というものではなからうか。

さて、ある夏の暮れ時。新潟県津南町で、私は若いツキノワグマを縄文土器で煮て食べた。而してクマは私の血肉となったのである。その晩は竪穴住居の床に身を横たえた。クマ肉が効いたのか、冴えて閉じない目が暗い住居内を見渡す。キャンプ生活に慣れた身にしてみれば、この床に寝るというのは自然ではない。デッドスペースが多くてモノの置き場が限られる竪穴住居内では、フレキシブルなハンモックを使うほうが自然である。縄文人なら上等なハンモックを用意することぐらい、訳もなからう。

翌日の昼近くのこと。中身を空にした土器から腐敗臭が漂ってきた。衛生上の問題発生だ。リアルな縄文集落同様、近くに水場などない。だから残滓を取り切れなかったのである。ところで縄文人は日常的にそれほど容量の大きい土器で肉や魚を煮ていたのだろうか。後始末は空焚きして内側を焼く切るのだろうか。それとも水を足しながら煮続けるのだろうか。私はもう、肉や魚は焼くか燻すことにして、煮ることはないだろう。土器は主に植物質のものを蒸し、茹でることに使う。毎日することとはどういうことなのか。健やかにズボラに、美味しいものをいただく。そういう毎日が、私にとっては自然である。

『くなめとこ山> くまになったぼく、ぼくになったくま』は私の顔型と食べたクマの骨を組み合わせて制作した。

堀江 武史

[遺物と美術の併置展示に関する著作]

2008年「縄文土器の修復・複製・復元品の活用」『総覧縄文土器』小林達雄編著 アム・プロモーション ISBN978-4-944163-37-3

2011年「縄文と現代をつなぐ美術表現の試み 今昔の関係性をカタチに」千葉県船橋市飛ノ台史跡公園博物館紀要 第8号

2012年「縄文の魅力を世界につたえたい—私の考える縄文遺物と現代美術の協同」『penser l'art aujourd'hui inspirations au japon』ETUDES JAPONAISES (France) ISBN978-2-9531830-4-7

2016年「縄文人の暮らしと現代アート—歴史を再発見・再創造する—」『ひとが優しい博物館—ユニバーサル・ミュージアムの新展開』広瀬浩二郎編著 青弓社 ISBN978-4-7872-0061-7

[展示]

2007年『出会いの造形』(千葉・飛ノ台史跡公園博物館) 博物館所蔵の縄文土器を作品化して展示

2009年『ジョモニスム』(新潟・津南町なじもん) 縄文遺物と現代美術の併置展示を企画

2010年『ジョモジェニック』(岩手・滝沢村埋蔵文化財センター) 併置展示を企画

2011年『ジョモニスムⅡ』(岩手・御所野縄文博物館) 併置展示を企画

2012年『マヤ・縄文の根』(東京・メキシコ大使館)

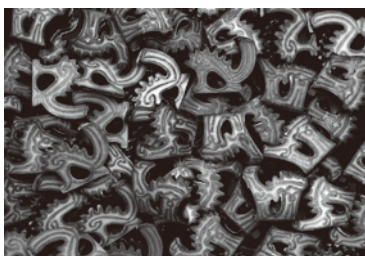
2014年『縄文人ののこした16のカタチ 堀江武史展』(岡山・猪風来美術館)

2015年『Arts of Jomon』(東京・スパイラルガーデン、アメリカ・デンバー国際空港)

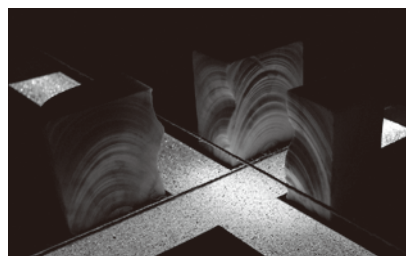
2016年 第8回世界考古学会 Art and Archaeology サテライト展示『カケラたちの庭より』(京都・建仁寺両足院)

2017年『モノの力 ヒトの力』(東京・國學院大學博物館)

『くなめとこ山> くまになったぼく、ぼくになったくま』2017



『つくる、こわす。のこる、きえる。
(堂平遺跡火焔型土器の場合)』2011



『もう一つの縄の使い方 石を切る』2013



『男、女、子ども、ゼンマイ <るうびんの壺>』2018

堀江 武史 HORIE Takeshi

1967年東京生まれ。國學院大學文学部卒。府中工房(文化財修復・複製)主宰。
日本考古学協会会員。

<交通のご案内>

- 上越新幹線 越後湯沢駅下車→南越後交通バス 森宮野原行き(約50分)「十二ノ木」下車→徒歩(約20分)
- 練馬IC→塩沢石打IC(関越自動車道約120分)→R353 経由(約35分)
- 新潟西IC→越後川口IC(関越自動車道約60分)→R117 経由(約60分)

